

# 自由南アフリカの声

*Voice of Free South Africa*

2007年6月

No. 44

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

## 2007年6月までの報告

- 1月 八尾市より移動図書館車引取る
- 2月 「ソトコト」誌3月号にTAAAの活動紹介
- 南アにて、ELETと会議、小学校訪問
- KZN州未使用移動図書館車2台盗難に遭う
- 3月 KZN州教育省CEOが移動図書館車を訪問
- 習志野市より移動図書館車を引取る
- 4月 下野市の車を南アKZN州へ送付
- 西ケープ州カエリチャを訪問
- 5月 TAAA南ア代表がソウエト、MEIなどを訪問
- 外務省主催アフリカン・フェスタに出展

## 内容

ソウエト SOMOHO 訪問 (平林薫)	2
2006年度移動図書館車の運行状況 (久我祐子・西村裕子)	4~7
TAAAと私 第5回 (野田千香子)	8
アフリカン・フェスタ繁盛記 (浅見克則・佐々木香世子)	9
2006年度決算書	10
主な活動・ルイボスティ	11
寄付・会費・本などを下さった方々	12



南アの生徒が描いた移動図書館や授業風景の絵

## ソウェト SOMOHO 訪問

TAAA 南ア事務所代表

平林 薫

昨年、TAAA の米山周作が JVC の津山直子さんの紹介で、ソウェトの SOMOHO（希望の丘と言う意味の NGO）のスタッフの家にホームステイさせていただいてから、SOMOHO とのお付き合いが始まった。昨年、ダーバンに 306 箱の本を送ったうちの 30 箱とサッカーボールを SOMOHO に再送した。今回、平林が SOMOHO を訪問し、リーダーのマンドラ・メントール氏にお会いし、さらに五つの学校を訪問して来た。（野田）

英語で MENTOR（良き助言者、指導者）という言葉があるが、マンドラさんの姓 Mentoor は偶然にもそれに近い。彼はまさに MENTOR である。しかし彼は決してポリティカル（政治的）な指導者ではない。スピリチュアル（精神的）な指導者であり、何よりもアーティストなのだ。本来なら政府の重要な役職に就けるのかもしれないが、彼はあえてそれをしない。もしかしたら、彼は理想を追いすぎている、と言う人がいるかもしれない。けれども、その理想に共感し、それを実現させようとする人々の力で、ゴミだらけの悪の巣窟であった岩山を“希望の山”に変えた。彼の小さな身体は、丸々と太った元フリーダムファイターたちと対照的である。しかしその細く締まった身体にはエネルギーがみなぎり、行く先々で出会う人々に前向きなパワーを与える。

彼は決して説教などしない。相手がどのような立場の人間であれ、常に謙虚で、対等な立場で

話をする。彼がこれまでにしてきたこと、これからしていききたいことを熱っぽく語るだけだ。しかし、その一言一言に“教え”があり、彼の“少ないリソースの中からだってコミュニティを変えていくことができる。まず行動することだ。”という言葉から、改めて自分のすべきこと、進む方向がクリアになったような気がした。大げさに言えば、彼の生き方を通して人間としての生き方を学ぶことができるのだ。私は彼の考え、活動、希望に 100% 共感してしまった。私が日々考え、活動し、描いている希望と同じことを聞いたとっていいだろう。もちろん、彼の深い洞察力や豊富な経験に敵うはずはないが、彼にとってコミュニティの人々の喜びや苦しみは、彼の喜びや苦しみののである。彼のような人物と出会えたことは本当にこの上ない幸せである。

ソウェトのバラグワナ総合病院近くのガソリンスタンドで SOMOHO メンバーのオースティンさんと待ち合わせをした。バラグワナ周辺はずいぶんきれいになり、特にミニバスタクシーの乗り場が整備されていた。SOMOHO はソウェトでもかなり奥のチアウェロという地域にあり、周辺は主にツォンガ系の人々が住む。ここはマンドラさんの自宅兼オフィスで、家の周りの塀や入り口のドアなどにアーティストを感じさせる。リビングには廃材で制作された素敵なアートワークが飾られていた。メンバー（写真：右マンドラさん）は



広報担当のムセツアナさん、教育・学校担当のパトリックさん、そして迎えに来てくれたオースティンさんは活動家であり、公立図書館に勤務していたこともあったととても優秀な若者だ。

挨拶の後、SOMOHO 設立の経緯やこれまでの活動についてビデオを見たり、話を聞いたりした。マンドラさんは長い間、個人で活動を行ってきており、SOMOHO として組織で活動するようになったのは5年前からだという。これまで主に環境問題に取り組んできたが、その多くは学校を巻き込んだ子供たちへの環境教育である。今年2月から行っている活動では、地域の7校で環境に関する基本的な知識を講義し、その後実際に外に出てエコシステムを学び、学校や地域の清掃、学校菜園などを行っている。清掃作業は“Garbage Snake (ゴミの蛇)”と呼ばれ、現在は、集めたゴミをリサイクルし、廃材からアート制作も行っている。そしてTAAAからの本の寄贈によって、図書教育も活動の1つに加わった。前回TAAAから送られた30箱はプロジェクトに参加している7校に届けられ、今回、そのうちの5校を訪問することができた。

最初のガザンクル小学校(写真上)は、すでに教室を図書室に改装していたが、まだ蔵書も少なく、本棚もなく、本の分類もできていない。それでもTAAA寄贈の本を生徒たちは大喜びで読んでおり、9月には感想文のコンテストを行う予定だと言う。先生方と簡単なミーティングをし、引き続き本の寄贈を依頼された。また、移動図書館バスが巡回するようになれば、図書活動がもっと活発になるだろうという期待が寄せられた。2校目のメガトン小学校は、グレード1-4までで、絵本が大変喜ばれていた。毎週金曜日には朝礼の時間に代表の生徒が全校生徒の前で本を読む、リーディングセッションを  
写真下 モツァネン小学校



行っている。そして最後に訪問したモツァネン小学校ではグレード7(日本の中学校1年生)の生徒が高校一年生の教科書をととても有効に使っていた。教科書は東京書籍の“All Abroad! English”で、30冊ほどまとまっていたので、クラス全員が一緒に使って勉強できる。写真や内容がとても興味深いと生徒の1人が話していた。

地域には公共の図書館がないため、本を借りたい場合にはミニバスタクシーで20分くらいの図書館に行かなければならない。学生にとっては運賃をかけて図書館に行くことは難しい。ここでも移動図書館車巡回の必要性、有効性を強く感じた。将来、SOMOHOに移動図書館車が寄贈された場合は、バスは山の麓にあるセキュリティのしっかりとした自治体のオフィス内に保管される。現在、図書館を含めたSOMOHO多目的センターを企画中で、それが完成すればバスのデポとして利用することができる。

一番大きな課題である運行の費用については、自治体やその他の支援団体と相談していきたいと言う。ハウテン州教育省自体がバスを持っていないが資金やスタッフ不足のため動かせない状態にあることから、州教育省からSOMOHOへの資金的な支援は難しいと考えられる。これから早急にプロジェクトの詳細な提案書を作り、自治体や財団などへ資金提供を依頼していく必要がある。SOMOHOが移動図書館プロジェクトを始められるようになれば、地域に根ざした、きめの細かいサービスを行っていくことができるだろうと感じた。バスは本を含めた様々な情報を提供する役割を果たすことになるだろう。

## 2006年度：移動図書館車の運行状況

運行者 (バスの愛称)	車両 開始年月	対象地域	対象学校数 生徒数	校内に図書室 がある学校数	学校は読書を推進する教育をしていますか？ また、その方法は？
ハウテン州 州教育省 (サンシャイン)	三菱 良好 1999年	ハウテン州	28校 15,135名	0校	国語の授業に読書が組み込まれている。毎年「全国読書週間」があり、生徒達は読書を奨励される。
ハウテン州 州教育省 (レインボウ)	日産 良好 2003年4月	オレンジファーム 地域 エイケンホフ及び フラクホンテン	7校 4,845名	1校	「読み書き能力向上プログラム」を提供している。プログラム週間中は、詩や演説・ドラマなどを読むことを中心とした様々な活動がある。
MEI NGO (ザ・バス)	三菱 多少問題有 1997年1月	デベトン エトワトワ	41校 40,000名	0校	特にしていない。 MEIは、READに読書推進トレーニングを提供してもらっている。
西ケープ州 州教育省 (---)	いすゞ 良くない 2000年	カナランド地域 ズアール及び その近郊地域	9校 2,243名	0校	生徒には、必須の読書時間が設けられていて30分間、一人で、または教師の助けを借りて本を読む。
西ケープ州 州教育省 (ブックバス)	日産 良い 2005年	ブレデンダール	20校 1,457名	6校	教師は生徒に小説の読み聞かせをしたり、小説をドラマ化し、生徒に内容を書かせたりする。文字が書けない生徒は、小説の絵を書く
KZN州/NGO (モービルライ ブラリ)	いすゞ 良好 2004年8月	イナンダ	21校 約9000名	8校	教師は生徒に読み聞かせをする。 読書期間を設けている
エルギン (アマボエケ)	日産 良好 2002年	エルギン及び グラビュー	8校 2,657名	0校	西ケープ州教育省管轄の学校は、読み書き向上のために毎日30分間の補習時間が義務付けられている。この時間内は、教科書以外の本を読む。生徒は、読書感想文を書いたりディスカッションをしたり、読書記録を付けたりしている。
フリーステイツ州 州教育省 (---)	三菱 使用可能 2007年	タボ及び モフタンヤナ地区	25校 1校につき 約100～ 500名	0校	リソース・コーディネーターから研修を受け本や教材を日常の授業に取り入れている
フリーステイツ州 州教育省 (---)	三菱 使用可能 2007年	ブルームフォンテ ン	18校 6,000名	0校	リソース・コーディネーターから研修を受け本や教材を日常の授業に取り入れている
合計			177校 87,577名	44校	昨年に比べ、対象校は、44校増加 対象人数も、9,437人の増加となりました。

本の貸出・管理方法	需要が高く不足している本	この1年間での主な進展
学校での本の貸し出しは、手作業で行う。図書館のコンピューターは盗まれたので、現在、新しいシステムを作っている状態。	絵本・授業用の教材・教師用の本・専門書(経営学など)	・フリステイツ州教育省やツワネ自治市など、移動図書館サービスを提供する団体と連絡を取り合った。・スウェーデン南部で開かれた学校図書会議でレポートを配布した。
学校訪問 貸出システムは、手作業	絵本・授業用の教材・辞書、百科事典・参考書	蔵書が増えた
Libwinソフト搭載のラップトップを使って教師達に貸し出す。教師は図書カードを使って、生徒達に本を貸し出している。	授業用の教材(現地語の本)	回答なし
手作業 司書が貸出システムを管理している。	絵本・小説 (バスは最新の本をストックしている)	・読書熱が高まった ・子供たちは、祖父母に本の読み聞かせをするようになった。
バスは、学校を隔週訪問し、生徒達が本を運ぶ	絵本・小説・授業用の教材	・学校が、より積極的に参加するようになった ・対象校が増えた ・寄付により蔵書が増えた
学校まで訪問し、生徒と教師は移動図書館車から本を選ぶ。司書は搭載された本のリストを作成し、統計を取る。	小説・情報誌・辞書、百科事典・専門書	・小学生は英語がしゃべれるようになった。 ・中学生は英語の読み書きが出来るようになった ・大学入試の合格率が上がった。
西ケープ州教育省教育図書課のPALSシステムで、コンピューター管理され、貸出が行われている。	絵本・小説	・教師からの提案で、高学年の生徒には、本を直接貸し出しするようにした。これは非常に効果的で生徒達の関心は高まる一方である。生徒同士で、ハリーポッターなど特定の本を薦めあっている姿は微笑ましい。
本はプロジェクト対象校に限定し、各校で選ばれた教師を介して貸出する。選ばれた教師は、学校スタッフとの「つなぎ役」になるよう研修を受けている。	絵本・小説・情報誌・辞書・百科辞典	・方針の立案 ・対象校、運営委員の選出 ・本や教材を選択 ・プロジェクト開始 ・移動図書館車を訪れる教師が増えた
教師は、一度に30冊まで借りることが出来る。オンラインシステムを使って貸出し、借りた本の記録をつけている。	絵本・辞書	・生徒達は本を借りることを楽しんでいる ・自分達のプロジェクトのために情報を求める生徒が増えた。

\* 移動図書館車に積んだり、学級文庫に入れるための英語の本や寄付金は年間を通して集めています。

\* 低学年用の絵本や英英辞書などは、大歓迎です。

## 未使用図書館車の報告

運行者	車両状態 開始年月	保管場所	使用されていない期間	使用されていない理由	計画・立案
MEI NGO	いすゞ 運行可能だが、 図書館車として使 用するには、本棚 の改善必要あり 1998年	MEIの倉庫	約2年間。98年～05年まで、 グラハムタウンで使用。地元 の学校に環境教育を提供して いた。昨年、グラハムタウンで は、地元のバス会社からもつ と大きいバスを寄贈されたの で、このバスは返却された。	ペノニ地区において、現行 のバスが巡回していない 学校を対象に使用するよ う提案している。現在、ハ ウテン州教育省と交渉 中。教育省がスタッフを提 供し、MEIが運行するとい う提案を出しているが、教 育省からの返答を待って いる状態。	教育省から良好な応答が 得られなかった場合は、 別の地域での使用を考え なければならないが、教 育省から「ノー」と言われ ない限り、合意を得られた 場合、約束を守るために バスを保管している。
MEI NGO	いすゞ 運行可能 2004年12月		約2年間		
KZN州 州教育省	未記入回答				
KZN州 州教育省	日野 2006年8月 (車両状態: 要修理)	ELITS	6ヶ月間	政府の登録待ち 機材購入、スタッフ採用の 必要がある	先月、運転手と司書の 面接をした、 来学期には採用が決まる 予定
KZN州 州教育省	いすゞ 2006年8月 (車両状態: 要修理)				
KZN州 州教育省	日野 2006年8月 (車両状態:良好)		9ヶ月間	機材購入、スタッフ採用の 必要がある	
KZN州 州教育省	いすゞ 2006年8月 (車両状態:良好)				
KZN州 州教育省	日野 2006年8月 盗難された		6ヶ月間	盗難	
KZN州 州教育省	三菱 2006年8月 (車両状態:良好)		9ヶ月間	機材購入、スタッフ採用の 必要がある	
KZN州 州教育省	いすゞ 2006年8月 (車両状態:良好)				
ハウテン州 州教育省	日産 1999年 (車両状態:良好)		図書館敷地内	3年間	
ハウテン州 州教育省	いすゞ 1999年 (車両状態:良好)	図書館内	1999年から 以前は中学校を巡回してい たが、成功しなかった。	スタッフ不足	日本大使館からの資金援 助を得た。グレードR移動 図書館車を40校の小学 校対象に運行できるよう 準備中。3学期より巡回を 開始する。

**\* 移動図書館車一覧表報告 解説 \***

久我祐子

TAAA は、毎年年度末に移動図書館車寄贈先のレシピエントにアンケート形式の「移動図書館車プロジェクト報告書」を提出してもらっています。2006 年度(2006 年 4 月～2007 年 3 月)の報告書も全てのレシピエントから届きました。今年度は全体的に資金不足、それに伴うスタッフ不足を問題として取り上げている団体が目立ちました。しかし、財政的に厳しい状況下でも、例えば司書が運転手を兼任するなど、創意工夫でコストをスリム化しながらプロジェクトを継続・推進しているようです。プロジェクト 10 年目を迎えてさらなるサービスの向上を図る MEI、8 年前に送った一台を辺境地域で資金難に直面しながらも運行しつづけるズアールなど、今年も NGO の奮闘ぶりが伝わりました。また、印象的だったのは、学校が、州政府や NGO と協力し、生徒の読解力向上のために実に様々なプログラムを推進していることでした。このようなプログラムに移動図書館車プロジェクトが効果的に組み込まれているようです。このように最大限に活用されているバスがある一方、残念ながら、様々な理由で待機中のバスも多く存在します。待機バスを多数抱えるクワズルーナタール州教育省と2台を長期に抱えるハウテン州教育省に対しては、TAAA は今後ともコンスタントに連絡を取り合い、問題解決、運行開始を促す努力をしてみたいと思っています。



2月に、KZN 州教育省より「バスが盗難にあった」という報告が入った。駐車場に保管中の2台であった。この報告に南ア事務所はもちろんのこと、こちら日本サイドでも一同に衝撃が走った。怪我をされた方がいなかったことには本当に安堵した。犯罪の多い南アで、今まで一度も被害に会わずにきたことは、奇跡に近いことなのかもしれない。2台はいまだに消息不明であるが、これまで、移動図書館車を大切に管理してくださった担当の方々には、どれだけのご苦労があったことかと、改めて感謝の気持ちで一杯である。以下は移動図書館車を大切に思う気持ちの表れた新聞記事である。 (西村裕子)

「出番が待ち遠しいな！」バスの前の男性は、イナンダ移動図書館の運転手：トコさんです。  
きれいにペイントされた待機中のバス4台(KZN州にて) カラフルな色合いは、是非HPをご覧ください！

2月16日付け 南ア「デイリーニュース紙第2面」より

(訳:TAAA南ア事務所代表 平林 薫)

ダーバン警察は、教育省で移動図書館として使われることになっていたバス 2 台を探している。バスは金曜日午後 6 時過ぎにウンビロの教育省オフィスから盗まれた。教育省スポークスウーマンのクリスティ・ナウディの話によると、バスは日本の「アジア・アフリカと共に歩む会」から寄贈された 11 台のうちの 2 台である。『1台はトヨタ製で今年の1月21日に通関したもので、もう1台は三菱製で昨年受け取ったもの。両方ともまだ登録などが完了していない。バスは白に黄色の線が一本入っているものと、車体下方に青の二本線が入っているもので、どちらも車体に日本語の文字が入っている』

4人の窃盗犯はキーなしで直結してエンジンを始動させ、他のスタッフが駐車場を出るときにガードマンがゲートを開けた際続けて出て行ったらしい。ガードマンはバスが前の車のスタッフと一緒にだと思ったという。

ナウディは、『読書はすべての学習の基本。移動図書館車は、図書室のない学校への解決策であり、これらのバスが盗まれたということは、何千人もの子供たちが盗難にあったことを意味する。州教育大臣イナ・クロニエは、市民の皆さんと一緒に盗難車を探してくれるよう訴えている』と話した。

バスを見かけた人は、031-203-2405 デプレシス警部まで、またはホットライン 0800 204 353 まで連絡を。

# TAAAと私

## 第5回

(1995年)

野田 千香子

### 阪神大震災で外国人学校支援

南アだけに援助しているのに、なぜ”アジア・アフリカと共に歩む会”なのですか、とよく聞かれる。アジアにも支援したいのだけれど、やりはじめてみると南ア全域だけでも手が回らないのです、と答えてきた。

しかし、1月の阪神大震災の時は例外だった。たくさんの学校も被害を受けた。その中で神戸周辺の外国人学校は、各種学校の扱いを受けているため、一般の日本人の学校より二重の困難に陥っていた。運営費の国庫補助がなく、通常でも後援者や保護者などの関係者で学校運営費を捻出しているのだが、震災で後援者自身も被害に合い、校舎再建と運営費のメドが立たず、困っているという事を知った。これは日本国内の差別問題ではないか、とTAAAでは考え、支援を行うことに決めた。

TAAAとして、広く、人々に訴えた結果、約120万円が集まり、東神戸朝鮮初中級学校と神戸中華同文学校に渡す事ができたのであった。2校には、TAAAから3人が別々な時期に訪問し、校長や主任の先生からお話を聞いた。中華同文学校の蔡総務主任は「在日外国人に日本をよく理解してもらうことは、必ず日本社会の利益や国益に合致する。ODAよりも国際的理解を受けるには手っ取り早い方法ではないか」と訴えられていた。

“アジア・アフリカと共に歩む会”は、このとき一度だけ、アジアにも支援活動を行なったのであった。

### 移動図書館車を送ることになる

その前年に私と下谷さんが南アを訪れた際に、「こんなふうにはたくさん本を送ってもらってもこの地域だけでも子どもの数が7万人はいるので、足りない。いつか移動図書館を使って、少ない本を有効に利用できればいいと考えている」という話を聞き、私たちとしてもそんな事ができたらいいな、と夢のように考えていた事が1年もしないうちに、思いもかけないことから実現する運びと

なった。

10年経過したディーゼル車については毎年の車検が義務付けられることや財政難や新規の図書館増設などいろいろな理由から、廃車となる移動図書館車が出る、という事を知った。そういう移動図書館車の中には、再整備すればまだ何年も使える車が多くあるという事も知った。

TAAAのメンバーには、公立の図書館職員である北爪さんや元大手の自動車会社でトラックの設計をしていた浅見さんもいたので、そうなる話は早かった。ほぼ日本中の移動図書館車を製作している会社がたまたま、埼玉県にあったので、出向いて話をすると、そこに置かれていた古い車を持って行って構わないよ、ということになった。松伏町が移動図書館車を買換える際に、廃車直後の車をいただけることにもなった。

私たちは胸を躍らせて、南アのNGOに移動図書館車寄贈のいきさつを伝えた。彼らも大喜びだった。松伏町の車は、南アで走り始めて11年目になるがまだ元気に40校も巡回している。製作会社に野ざらしになっていたものは、さすがに今は引退し、ハウテン州のある学校の一隅で図書館として使われている。

しかし、車の南アへの輸送については関税の問題が大きく立ちはだかっていた。(つづく)

### 初めて送ることになった移動図書館車





# アフリカン・フェスタ繁盛記



5月の薫風が吹きぬける日比谷公園に外務省主催の『アフリカン・フェスタ2007』に参加することになった。19日(土)は若干怪しい空模様。時刻通り来ない京浜東北線に野田さん、西村さんと浦和駅で合流。「僕は電車では座らないことにしている」と宣言した途端、後ろの席が空いて3人で即着席。南浦和を過ぎて西村さんが目の前に立つ佐々木さんの後姿を発見。何たる偶然！

日比谷公園は遠雷の太鼓の響きがこだまする中、早速、恐れ多くも JVC と同じテントをシェアして設営開始。久我さんの実母の中野さんがテキパキと南ア特産のプレスレットやネックレス、ルイボスティー等を購買意欲をそそるようディスプレイ。TAAA チームはビーズ、ホワイトバンド、今まで殆ど売れなかった本やら ANC 東京の小冊子アマンドラを負けずと並べるが少々見劣りが…。しかも10時頃から一転俄にかき曇り、雷光一閃。大粒の雨が来襲。水捌けは良いもののテントの下は川状態。暫く、呆然と過ごすうち12時の開場には何とか回復。TV とラジオでの宣伝効果で一気に午後は客数急増。近くのテントから漂うアフリカンテイストにお腹は鳴り放し。野田さんはフードテントとの往復に明け暮れた。予想に反しアパルトヘイト以前の状況を伝える本が売れ出す。流石に日比谷、フェスタに集まってくる人々の関心の度合いが違う。或る女性『あら懐かしい吉田ルイ子さんの本！』 浅見『ルイ子さんご存知ですか？』 女性『よく一緒に飲むの』・・・こんな人が集まってくる。

2 日目 雲と言う字が広辞苑から消えてしまったような快晴。大手町のパーキングメーターは日曜日にタダになることを知っている優秀なビジネスマン(浅見)の先導により車で来場。遅刻予想で盛り上がった話題の主、下谷氏が9時半に現れてみなビックリ。続いて NEC の丸ちゃんこと丸岡氏登場、キリンのようにテントの高いところを設営。ホカロンのお母さん佐々木さんも・・・と続々登場。10時から一気に盛り上がりを見せ、前の通路からはみ出すほどの盛況。隣の JVC も南アをテーマに TAAA に挑戦的。左隣はマダガスカル植林 NGO。女性の大半が久我さんのアクセサリーに群がり、ついで TAAA のビーズ(1個を残して売り切れた!) ついでに本をパラパラ(それでも空前の売れ行き)。昼過ぎには山下さんが差し入れを持って風のごとく現われ、風と共に去りぬ。久し振りの《コンドー》さんが現われテント裏でジュースと菓子を頬張って、僕のレクチャーを聴いて帰った・・・。武山さんがローラブレードで現われる頃、祭りは最高潮。直ちに売りに変身して売上倍増計画に寄与。浅見氏のレクチャーは騒音とコンピュータ不調の上、観客7~8人(内、身内4名、野田茂徳氏が大きな身体でニコニコ聞いていた)であり効果的とはいえなかった。

2日間の結果、売上利益6万円強は癖になりそう。2名の作業参加希望者も現われて、ますますの成果と共に夕陽に向かって帰る車内で「来年は・・・」と話が弾んだ。(浅見克則 記)

## フェスタの感想

2日間を通じ TAAA ブースに寄られた色々な方とお話でき、とても有意義でした。「どんな本だったらいいの?」「私も友人とボランティア団体を立ち上げたいけど資金はどうしてるの?」「アジア・アフリカと共に歩む会なのに何故南アだけの支援なの?」「まだアパルトヘイトってあるの?」と国籍多々の人からの問いかけや、某証券会社新入社員さんは南アランド債の営業に連日訪れたり。ビーズの美しさに吸込まれる様にブースに入り、計一万円以上お買い上げ、帰りにパンフを手に、「必ず本贈るわ!」と黒人のご姉妹。子供用ビーズアクセサリーを買っていった小学生が南アを覚えてくれたかな? 南アはちょっと他のアフリカの国とは色々な面で異質だなどの思いが、より強くなりました。それにしてもアフリカの女性ってかっこいいなと改めて思いました! TAAA に参加したばかりなのに、こんな機会に恵まれありがたかったです。色々教えて下さった皆様、本当にありがとうございました。(佐々木香世子 記)

# アジア・アフリカと共に歩む会 2006年度 決算書

会計期間：2006年4月1日～2007年3月31日

## I：一般会計

### (収入の部)

寄付金		1,472,497
会費収入	1. 会費	146,000
	2. 賛助会費	95,000
助成金	1. 埼玉県国際交流協会	200,000
	2. ひろしま祈りの石	1,500,000
ムルンギシ学費支援基金		94,200
南ア事務所前期末清算金戻し入れ		336,404
預託事業収入		0
販売収入		0
受取利息		729
その他収入 委託事業収入(前年度未収受託金回収分)		180,143
計		4,024,973

### (支出の部)

事業費	1. 図書館車関係費	2,323,227
	2. 図書関係費	481,571
	3. 南ア事務所活動費	616,404
	4. その他活動費	0
管理費	1. 通信費	149,161
	2. 事務費	61,917
	3. 旅費交通費	30,540
	4. 印刷費	60,000
	5. 水道光熱費	10,905
予備費		0
雑費		0
計		3,733,725

## II：収支決算書

前期繰越金	4,148,314	
+ 一般会計収入	4,024,973	
一般会計支出	3,733,725	
- 次期繰越金	4,439,562	(内：73,324 円は南ア事務所現金残)

上記の通り報告いたします。

2007. 3. 31

会 計：西村裕子

会計監査：下谷房道

